

「第12期(還暦)同窓会」ご案内

よみがえる青春時代!
楽しい語らいのひととき。



【日時】2018(平成30)年10月6日(土)

受付時間 = 12:30 開会 = 13:00

【場所】KKRホテル大阪 2F 白鳥の間
大阪府大阪市中央区馬場町2-24

【会費】5,000円 【お申し込み締切】9月7日(金)

「第1・2期(古希)同窓会」ご案内

同窓会は人生の活力!
仲間とともに古希を喜ぼう。



【日時】2018(平成30)年11月7日(水)

受付時間 = 16:30 開会 = 17:00

【場所】KKRホテル大阪 14F オリオン
大阪府大阪市中央区馬場町2-24

【会費】5,000円 【お申し込み締切】10月5日(金)

○遠山ゼミ[遠友会]開催のご報告。

7月28日(土)阪急ターミナルビル17階「里山」にて「夏の茶話会2018 ~遠山嘉博先生と語る~」を開催。会場いっぱいの卒業生がつどい、お元気で懐かしい遠山先生の講義に聞き惚れていきました。【能口 元良(4期生 経経)】



各支部のつどい・同窓会への
お申し込み方法はこちら

TEL: 06-6943-8400
<http://otemon.org/>

二次元コードで
簡単アクセス!



校友会学生会員 INTERVIEW

学生が参加したくなる
校友会のあり方を提案していきます。



樋口 謙祐 さん

大学院文学研究科(現・現代社会学研究科)2年

校友会学生会員にして評議員を務めさせていただいております。私の役割は、学生の目線で校友会の活性化に寄与するとともに、学生の参加を促すための施策を提案することだと思っています。そのための私案は、経営者や大手企業幹部として活躍中の先輩方が数多くおられる本学校友会の特長を活かすことです。先輩たちと学生が異業種交流のような形でつながることで就活のチャンスを広げられたり、企業の生きた情報が得られるしくみを構築して、参加の動機を形成できないかと考えております。最後に、私は現在修士論文の作成に多忙を極め、活動にあまり参加できていないことをお詫びいたします。来年からは校友会活動にも一層尽力するつもりです。

第2回
LinkAの
つどい

参加することがステイタス
となる会を目指していく。

7月27日(金)26名の校友がつどい、LinkAの趣旨について共有を図りました。ご参考の皆さまはビジネスでの成功のみならず、趣味や文化面でもご活躍中。本会は校友に門戸を広げるとともに、参加自体がステイタスになる会を目指します。次回は通天閣見学とセットで行うことを検討していますので、皆さま奮ってご参加ください。

[林元 光広(21期生 文心)]

ひと
言
メセージ

「京都支部のつどい」の参加者の声

- ▶ 真鍋副学長のユーモア溢れるお話を聞き、文学に親しみたいと思いました。昔は気つかなかった深い思いに触られると感じます。【北澤 三恵子(12期生 文東)】
- ▶ 高等学校で地理・歴史・公民を教えています。教育を通じて日本文化を伝承することの重要性を感じました。【瀧野 博史(21期生 経経)】

山櫻會報

第102号

2018年9月

安威での思い出 いつまでも!

~安威への感謝と総持寺への希望~

藤原 弘邦(高[茨木]24期)

7月28日(土)、安威キャンパスにて校舎お別れ会が開催されました。今までのお世話を感謝の気持ちを表し、大勢の生徒・卒業生と教職員達が集まり最後の姿を心に刻み、次年度からの新「総持寺キャンパス」への希望を語り合いました。



追手門学院中・高等学校 卒業生より惜別のメッセージ

心に刻まれ消えることない
安威キャンパスでの思い出。

中村 典子 [旧姓: 中山] (中[茨木]9期・高[茨木]29期)

私たちの中学時代は1学年1クラスで、全体でもわずか3クラス。3年間同じ顔ぶれで過ごすため、各学年は担任を父母とする第二の家族のようでした。教室は緑のカーペット敷きで、休み時間や放課後には床に座りこんで寛ぎ、まるで自宅気分です。下校バスの時間ギリギリまで、級友たちとおしゃべりしていたことを覚えています。高校では、校庭に面したベランダからグラウンドを見下ろす景色は爽快で、目の前には将軍塚古墳の森。本当に贅沢な環境でした。安威キャンパスでの思い出はしっかりと心に刻まれ、消えることはありません。安威から未来へバトンを渡すように、新キャンパスでは後輩たちが新たな時間を紡いでいくことでしょう。ありがとうございました安威キャンパス。心の中の風景でまた会いましょう。



新天地で過ごす人にも
「大切な物」を見つけてほしい。

寺村 菜美香 (中[茨木]38期・高[茨木]58期)

安威という場所はいつも私を静かに、あたたかく迎えてくれました。新校舎とともに始まった高校2年。4年間過ごした旧校舎との別れは惜しかったですが、それ以上により恵まれた環境で過ごせることを嬉しく思いました。そこに変わらずあったのは、窓の外の景色。美しい夕陽をベランダに出てぼんやり眺めたのが懐かしい。あの場所で、本当にたくさんの大切なものを手に入れました。気がおけない友達、家族のような先生方、前を向いて頑張る姿勢、そして安威の景色……すべて、今の「私」です。移転はすごく寂しいですが、場所は変われば、変わらないものが追中高にはあってほしい。いや、あるはずです。新天地で過ごすすべての人には「大切な物」を見つけてほしいと思います。